

教授(生薬系)境系の研究者を中心としたプロジェクトの成果のひとつとして、エジプトの政府機関に報告されている。川から農地に水を引く灌漑の方法として現地では、畝の間に広い溝を掘り、土に水を浸透させるの狭い溝を掘り、水を浸透させるの溝から伸ばしたパイプに水を浸透させる。パイプにどこどこで穴を開けて散



エジプトの研究を行う杉田教授

水する...などが試みられてきた。だが、実際の農地でそれが最も効果的に水の蒸発を抑えられるかわからなかった。そこで同教授は現地で2010年から5年間、それぞれの灌漑方法について、水の蒸発量を把握するため、水蒸気の動きを赤外線や超音波を使い測定し

「ナイル川の三角州の地下には上流にある巨大な『アスワンハイダム』から流れてきた地下水があると考えられる。この地下水の量が農業に利用可能かどうか調べていきたい」と話している。(深作歩美 生物資源学類2年)

中村名譽教授死去
中村以正・筑波大学名誉教授が心不全のため10月11日に亡くなった。85歳だった。専門は応用生物化学。東京教育大学農学部助

大学のブラン...
し、闘病を続けていたが、翌年3月の任期満了に伴い退任した。大学葬や徳会会の開催は未定。

中年期の余暇活動

心の健康保つ

援助などに用(芸術系)が携わった。大学基金」に寄付すると所得や住民税が控除される利点もある。筑波大は、連携・渉外室の山田哲也

武田文教授(体育系)からは、中年期の心の健康を保つには、趣味を持つか人と一緒に運動することが有効だと明らかにした。同教授は「人との交流や社会的なつながりが健康の保持に重要」と話している。

5年後の心の健康指標の変化との関係を統計学的に分析した。その結果、趣味・教養や運動などの余暇活動をして

を記念して造(人社系)は「日本についてよく理解し、海外の人々に日本を伝えるための語学力を身に付けてほしい」と語った。(橋野朝奈 日本語・日本文学類1年)

武田教授は、厚生労働省が毎年全国規模で行っている「中高年齢者縦断調査」に着目。2005年の時点で心身共に健康な50〜59歳の男女16642人のデータを用い、「趣味」「運動」「地域行事」「子育て支援・教育・文化」「高齢者支援」などの余暇・社会活動の有無と

比較5年後にうつ状態になる危険性が低いことが分かった。一方、地域行事や高齢者支援などの社会的な活動の有無では、男女共に5年後の心の健康との関係は見られなかった。

原忠信准教授(人社系)は「日本についてよく理解し、海外の人々に日本を伝えるための語学力を身に付けてほしい」と語った。(橋野朝奈 日本語・日本文学類1年)

特に運動は、一人ではなく人と一緒に行動することが心の健康の維持に有効だった。武田教授は、「中年期の

行動が、その後の高齢期の心の健康につながる。現在働いている中年期の方が、仲間と一緒に手軽に運動やスポーツを実施できる環境の整備が重要」とも語っている。(大西美雨 社会学類2年)

金に3万円以上寄付をするともらえるイン 連携・渉外室提供

留學生11人出席
平成27年度10月期に入学した国費外国人留學生が対象の日本語準備教育コースが開講した。10月2日にグローバルコミュニケーション教育センターで開講式が行われ、ホンジュラス、メキシコ、インドネシアなど8カ国から来日した留學生11人が出席した。

同コースでは、日本の大学院への進学を目指す留學生や、日本や海外での教員を志望する教員研修生が、専門の授業を受ける前に集中的に日本語を学ぶ。日本文化の授業も行われ、楽しみながら日本について学ぶ機会が設けられている。開講式では小野雄一助教(人社系)が留學生に向けてスピーチを行い、「日本人は内気な人が多いので、自分から積極的に行動してほしい」と激励した。同コースを担当する関崎博紀助教(人社系)は「日本についてよく理解し、海外の人々に日本を伝えるための語学力を身に付けてほしい」と語った。(橋野朝奈 日本語・日本文学類1年)



金に3万円以上寄付をするともらえるイン 連携・渉外室提供